

<認知症対応型共同生活介護用>

<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1493500068
法人名	特定非営利活動法人 のぞみ
事業所名	のぞみの家 上郷
訪問調査日	平成23年3月9日
評価確定日	平成23年4月22日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493500068	事業の開始年月日	平成19年6月1日	
		指定年月日		
法人名	特定非営利活動法人 のぞみ			
事業所名	のぞみの家 上郷			
所在地	(247-0013)			
	横浜市栄区上郷町972-5			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成23年5月6日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【あやめ】 毎日の生活を職員とともに送っている、何でも話せ、安心して暮らせるホーム作りのために入居者様、ご家族、職員の会話を大切にしている。</p> <p>【すいせん】 個人の尊厳を重んじ、安全な生活と安心して暮らせる環境づくり 地域の中で暮らし、地域とともにあゆむ取り組み</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成23年3月9日	評価機関 評価決定日	平成23年4月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>このホームの特徴</p> <p>1. このホームの経営はNPO法人のぞみで、法人はこのホームを含めて横浜に2ヶ所、川崎に2ヶ所、藤沢に各1ヶ所、計5ヶ所のグループホームを展開している。このホームは新管理者を迎え、新しい理念を1年かけて考えて行きたいと考えている。「①入居者と職員が同じ方向を向き、共に考え、協力しながら安心して穏やかな生活を送ることが出来る。②個人を尊重し、介護の質を常に向上させる。③地域の中にとけこむ努力をし、ともに歩むことによって社会的責任を果たしていきたい。」のような理念と一緒に考えたいと思いつめている。職員が丸丸となって、同じように利用者の方に向けてケアが出来るようケアの質(倫理面、ハートの面、介護技術の向上の面等)を高めることを目指している。地理的にはJR港南台駅からバスで15分程度、根岸線本郷台と港南台からほぼ等距離の横浜環状4号線に沿った住宅地の中に位置している。</p> <p>2. 地域との関連では、現在、運営推進会議のメンバーの方のご協力により、自治会加入に向け準備を進めている。また民生委員の配慮により、包括支援センターでの昼食会に参加、地域の清掃、行事への参加希望を民生委員に伝えている。今夏バザーを開き、近隣の皆様をお呼びする予定をしている。運営推進会議では、状況報告、行事報告、話題提供、防災等についてのご相談を行い、頂いたご意見等は全体会議で話し合い、運営に反映するようにしている。</p> <p>3. 介護については、入居者の生活の様子、行為、会話の中から望んでいることを読み取り、心理を把握するように努め、職員間で情報を共有している。考え方のベースはセンター方式を踏襲しており、基本的にはご家族の来訪時に充分希望を聞き、面会の少ないご家族には、電話で介護に対しての希望を伺い、主治医、ナースとも話し合いながら、スタッフ全員でカンファレンスを持ち介護に生かしている。NPO法人のぞみには、専任の看護師が勤務し、グループの5箇所を巡回し健康管理を行っている。医療連携については、看護師を中心に行い、重度化や終末期については、主治医・介護スタッフ・看護師との話し合いの中で、入居者・家族の意向に沿うよう方針の共有を図り、対応して行くことにしている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	のぞみの家上郷
ユニット名	あやめ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「みんなで一緒に手づくり」であるが、GHの有り方に変化がみられるため、現在管理者を中心に新しい理念を検討しているところである。	現在の理念は「みんなで一緒に手づくり」であるが、グループホームの有り方に変化がみられるため、現在管理者を中心に、新しい理念を検討しているところである。職員が一丸となって、同じように利用者の方に向けてケアが出来るようケアの質（倫理面、ハートの面、介護技術の向上の面等）を高めることを目指している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議のメンバーの方のご協力により、自治会加入に向け準備を進めている。また民生委員の配慮により、包括支援センターでの昼食会に参加させていただいた。地域の清掃、行事参加希望を民生委員さんに伝えている。今夏バザーを開き、近隣の皆様をお呼びする予定である。	運営推進会議のメンバーの方のご協力により、自治会加入に向け準備を進めている。また民生委員の配慮により、包括支援センターでの昼食会に参加させて頂いた。地域の清掃、行事への参加希望を民生委員の方に伝えている。今夏バザーを開き、近隣の皆様をお呼びする予定である。近所からの職員も多く、その関係でも日頃ご近所との交流がある。ボランティアも多数導入しており、YMCAの介護福祉士の実習生を受入れている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校より職業体験の依頼がありその準備を進めていたが、生徒の希望者が少なく中止となった。また民生委員の施設見学会に当ホームを選択していただくようはたらきかけている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月ごとに実施している運営推進会議では当ホームの取り組みや地域の活動、ならびに区や包括支援センターとの情報交換を行い、これらから得た情報をもとにしてサービス向上を図っている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに実施している。メンバーは民生委員（1～2名）地域代表（大家さん）地域包括支援センターの方、ご家族（2名）それにホーム関係者で、たまに栄区役所の方が参加することもある。運営推進会議では当ホームの取り組みや地域の活動、並びに区や包括支援センターとの情報交換を行い、得た情報をもとにしてサービス向上を図っている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政機関の実施する研修会や話し合いの場に参加したり、運営推進会議の報告書の提出等を通じて、行政との協力関係を築くよう努めている。事故報告時の対応について事業指導室に指導を受けている。	行政機関の実施する研修会や話し合いの場に参加したり、運営推進会議の報告書の提出等を通じて、行政との協力関係を築くよう努めている。事故報告時の対応について事業指導室に指導を受けている。高齢者安全対策委員会（病院、交通、ケアプラザ等で行なう）に参加し、徘徊高齢者SOSネットワークにも加入し、グループホーム連絡会にも加入している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の方針を掲げ、職員の啓発に努める他、様々な研修会に参加して、情報の収集にあたりとともに、職員に対する研修を実施している。またドアや玄関の施錠についてもなるべくしない取り組みを続けている。	身体拘束の弊害を正しく理解し、身体拘束排除の方針を掲げ、職員の啓発に努める他、様々な研修会に参加して、情報の収集に当たると共に、職員に対する研修を実施している。ドアや玄関の施錠についてもなるべく行わない取り組みを続けて、閉塞感の無いケアに努めている。外に出たがるケースでは見守りで対応している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加し、この内容について職員に啓発している。また具体的な事例を挙げて勉強会を実施しその防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームにおいては成年後見制度を利用する予定者がおらず当面その必要性はないが管理者やフロア責任者の教養を深める観点から個人的な学びを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等にあたっては利用者や家族等の理解を得られるまで、十分な説明につとめ、納得を頂いた上での署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホームにご意見箱を設置して意見や要望を提出してもらうよう配慮する他に、家族会等の場において意見を述べてもらい、これらを運営に反映するように努めている。運営推進会議において家族の希望、面会時には入居者の様子を伝え、要望、苦情など話しやすい雰囲気づくりをしている。	利用者の意見、希望については日頃のケアの中で把握し、ご家族については来訪時、家族会、運営推進会議等で要望、苦情など話しやすい雰囲気づくりに努めている。また当ホームにご意見箱を設置して意見や要望を提出してもらうよう配慮している。頂いたご意見は運営に反映するように努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議やホームでの全体会議においてサービス向上の観点から様々な意見を出してもらい、可能なことから改良を図っている。	管理者会議やホームでの全体会議においてサービス向上の観点から様々な意見を出して頂き、可能なことから改良を図っている。個人的には面接等を行い、人事の異動（他ユニット、他部門の経験等）、技能・資格への挑戦等について話し合い、個人的な悩みも聞くようにしている。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望や個人的な要望までその都度職員の意見を取り入れながら、各自がやりがいのある勤務と職場環境の充実に努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の話を聞いて、フロア会議や全体会議の場で確認を取るとともに、市・区における研修に参加させて、資質の向上を図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会による研修や勉強会を通じて同業者との交流を図り、ネットワークづくり並びに他の職場における事例等を学んでいる。栄区グループホームの集いを1/2ヶ月開催しており、情報交換を行っている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分なアセスメントを実施、受け入れ態勢の確率を図っている。ご本人とのコミュニケーションを大切にしながら、不安事項など自然に話せるような雰囲気作りをし、職員は自分の話を聞いてくれる、と信頼関係が芽生えるように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	看護師、管理者、フロアリーダーなどチームでいつでも聞ける体制をしき、話しやすい環境作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前後に本人、家族はもとより、ケアマネジャー、ケースワーカー、利用していたサービスの担当者など多方面より情報収集し、ニーズを探るようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として職員も入居者を頼り、家族のような関係を作りたいと思っている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が家族と信頼関係を保つことによって思いを共有し、本人を中心として両方から支えられるように努めている。家族の面会は頻繁にあり、職員とのコミュニケーションも大切にしている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族またはその関係者ならびに友人などのホームへの訪問があり、和やかな時間を過ごしておられる。来設しやすい雰囲気作りを心がけている。	比較的にご近所からの入所があり、ご家族またはその関係者並びに友人等のホームへの訪問が多く、和やかな時間を過ごしている。また、来設しやすい雰囲気作りを心がけている。お手紙を友人、家族、旧職員へ出す支援をしている。分からなくなった方も多いため、ここを自宅と認識して、ご近所とのお付き合いを大切にしている。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者どうしの関係性を観察し、必要な場面で職員が媒体となり入居者をつないでいく役目をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在職中に退去者はないが、今春他施設に移る予定の入居者がいるので、今まで築いてきた関係を断ち切らないように、相談、支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の生活の様子、会話の中から望んでいることを読み取り、職員間で情報を共有している。どうして欲しいのか?を基準に考えるようにしている。	入居者の生活の様子、会話の中から望んでいることを読み取り、職員間で情報を共有している。「どうして欲しいのか」を基準に考えるようにしている。基本的にはセンター方式をベースとしており、特に生活の様子、出来ること・出来ないことシートを活用し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の聞き取り、入居後の本人や家族との会話の中から生活歴、暮らしてきた環境など聞いた事項をつなげていき、ご本人の背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が入居者に積極的に多くの時間関わる事でひとりひとりの生活、心身状態、有する力などの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の要望、看護師、ケアスタッフなど多面的角度からの意見を反映させた介護計画の作成を心がけている。評価は毎月実施し、3ヶ月ごとの介護計画の見直しにつなげている。	入所に際してはアセスメント項目をインタビューしてホームで記入し作成している。内容はワーカーの意見、本人を見た状況を管理者、ケアマネが拾い出しアセスメント表を作成している。介護計画の作成については、本人家族の要望、看護師、ケアスタッフなど多面的角度からの意見の反映を心がけている。評価は毎月実施し、3ヶ月ごとの介護計画の見直しに繋げている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケース記録、排泄表、業務日誌に日々の記録を記載し朝夕の申し送りにて全職員が情報を共有でき、ケアに関する検討を日々行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に考えてない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	送迎ボランティア、地域ケアプラザや自治会催し物などから入居者に適したもの、希望の出たものを選んで参加し、楽しく充実した時間を過ごしていただけるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の行きつけ医院への定期受診、突発的な受診にも家族と相談しながら看護師を中心とした対応をしている。ほぼ全員が2/月往診を受けている。	入居前の主治医での受診は自由である。突発的な受診にも家族と相談しながら看護師を中心とした対応をしている。但し、ほぼ全員がホームのかかりつけ医の2/月往診と予防注射等を受診している。専任の看護師が勤務し、法人のグループホーム5箇所を巡回し、健康管理に努めている。医療連携については看護師を中心に行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師はほぼ毎日ホームに来ており、入居者の健康状態の把握と共に職員からの情報も報告されている。24時間オンコールにて緊急時の対応も可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師が中心となってホーム、病院間において情報を提供し、退院時の受け入れ体制を整えている。入居者が受診した際に病院とのつながりが保てるように看護師などが努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り方針にのっとり事業所で出来ることを説明し、本人または家族等への了解をもらっている。	入所時に医療連携体制について、看取り方針にのっとり事業所で出来ることを説明し、本人または家族等への了解と同意書を頂いている。また、終末期については早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で出来る事を十分に説明しながら方針を共有し対処している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事態急変や事故発生時に備えて定期的な訓練を実施し、職員のレベルアップをめざしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施や、災害に備えた保管物資の選定など、必要の都度点検し、備蓄している。	定期的な避難訓練の実施や、災害に備えた保管物資の選定など、必要の都度点検し、備蓄している。スプリンクラーは昨年設置を終えている。夜間想定避難訓練では、ボーイスカウトに救急救命の講習をしてもらい、また、蘇生術、初期消火のビデオを職員と一緒に見て参考にするなど研修に努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての研修を職員は受けている。人生の先輩としてして接し、自尊心を傷つけない声掛け、話題づくりを心掛けている。申し送り、カンファレンス等は入居者に内容が漏れないように配慮している。	プライバシー保護についての研修を職員は受けて、十分に配慮するよう努めている。人格の尊重については利用者的人生の先輩としてして接し、自尊心を傷つけない声掛け、話題づくりを心掛けている。申し送り、カンファレンス等は、入居者に内容が漏れないように配慮している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者、スタッフ間のコミュニケーションはよく取れており、日常の会話の中から思いや希望に対する言葉が引き出せている。自己決定に向けた声掛けを行い支援する体制をとっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決めてあるが、本人の希望を尊重し、やりたい時にやりたい事ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは生活を送る上で重要であるため、髪の状態、洗顔、服装など本人の意思を確認しながらその人にあった身だしなみに注意している。外出時には化粧を促したり、衣服、整髪など職員も関わっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、寿司づくり、ホットプレートを使った料理など職員とともに作っている。毎食の配膳、片付けなどできる方には積極的に行っていただいている。食事、おやつは入居者と同席し会話がはずんでいる。	食材については、法人の姉妹会社である「リフレ」からレシピ付きで入れている。「リフレ」には姉妹会社なのでメニューの希望を云える体制にある。野菜の下ごしらえ、行事食の寿司づくり、ホットプレートを使った料理など職員と共に作っている。毎食の配膳、片付けなど出来る方には積極的に行って頂いている。食事、おやつ時は、職員は、入居者と同席し会話が弾んでいるのを観察できた。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立により調理し、入居者の摂取状態にあわせて形態を変えている。摂取量は食事、水分摂取表にて管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。自分でできない入居者に対しては職員が関わっている。口腔内変化ある時は提携している歯科の往診や、行きつけの歯科受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表にて個々の排泄パターンを把握し失禁を減らすようにトイレ誘導している。本人の排泄欲求へのサインを見逃さないように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、腸の動きを促す運動の実施、レクリエーションなど取り入れ、排便が滞らないように努めている。排便表にて管理し、看護師に状況報告、服薬コントロールも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日曜日以外の隔日としているが、本人の希望や体調により臨機応変に対応している。浴室での会話を大切に、のんびり入浴していただいている。	入浴は、日曜日以外の隔日（週3回）としているが、本人の希望や体調により臨機応変に、午前も午後も対応している。浴室での会話を大切に、のんびりと入浴して頂けるように努めている。1Fにはリフト浴が設備されている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の入床時間は個々の生活リズムに合わせている。日中も臥床したり居室でのんびり過ごす時間も大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル、お薬手帳に服薬情報を記載しスタッフは常時閲覧できる。毎服用確認を行い状態変化時には看護師に報告し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦にある得意な楽器の演奏、レクリエーション、外出など行うにあたっては入居者の希望を聞いている。家事をやりたい方には積極的にお願いしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の店舗への買い物、公園、ケアプラザの催し物への参加支援をしている。車椅子利用者もボランティアのかたの協力を得て外出している。外出時に家族の同行もある。短時間でも敷地内に出て、風や日光にあたる機会をつくっている。	散歩で歩ける方は数名だが、近隣の店舗へ買い物に行ったり、光明寺への散歩に行っている。公園等へは車で行っている。ケアプラザの催し物への参加も支援をしている。車椅子利用者もボランティアの方の協力を得て外出している。外出時に、ご家族の同行もある。短時間でも敷地内に出て、風や日光にあたる機会を作るように支援に努めている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は預かっているが、買い物時は自分で好きなものを選ぶ楽しみを感じていただいている。自分でできる入居者には支払いをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、職員を通して対応している。携帯電話を所持している入居者もいる。手紙の希望に対しては準備から投函までスタッフが関わっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度調整はこまめに行っている。庭の畑には夏野菜を育て収穫を通して季節感を味わっていただいた。フロアにはスタッフと共に作成した季節の作品、思い出の写真などを飾り、振り返っている。	共用空間の室温、湿度調整はこまめに配慮し、職員と共に作成した季節の作品が飾られ、思い出の写真は話題づくりとなり、ソファで利用者は思い思いに居心地良く過ごしている。庭の畑には夏野菜を育て収穫を通して季節感を味わって頂いている。写真は貼り出し後、ご家族へお渡ししている。季節のお雛様やX'masツリーなどは飾るようにして、季節感を取り入れる工夫を行なっている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子の移動やソファを利用して思い思いの場所で会話を楽しんだり、テレビや音楽に聞き入ったりと、自己選択を尊重している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品、好みの家具などを家族に持ち込んでいただき居室に置いている。思い思いに居室でテレビを観たり、ラジオを聴いたり、楽器の演奏をして過ごされている。毎朝目覚ましで起きる方もいる。	居室は、本人の馴染みの品や、好みの家具などを持ち込んで頂き、居心地良く配置されている。利用者の方々は、居室でテレビを観たり、ラジオを聴いたり、楽器の演奏をして過ごす等、それぞれの思いに支援している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー、廊下トイレ、玄関スロープには手摺を設置してある。フロアからほぼ全体が見渡せ、入居者は自由に移動できる環境にある。		

事業所名	のぞみの家 上郷
ユニット名	すいせん

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「みんなで一緒に手づくり」であるが、GHの有り方に変化がみられるため、現在管理者を中心に新しい理念を検討しているところである。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議のメンバーの方のご協力により、自治会加入に向け準備を進めている。また民生委員の配慮により、包括支援センターでの昼食会に参加させていただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校より職業体験の依頼がありその準備を進めていたが、生徒の希望者が少なく中止となった。また民生委員の施設見学会に当ホームを選択していただくようはたらきかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月ごとに実施している運営推進会議では当ホームの取組みや地域の活動、ならびに区や包括支援センターとの情報交換を行い、これらから得た情報をもとにしてサービス向上を図っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政機関の実施する研修会や話し合いの場に参加したり、運営推進会議の報告書の提出等を通じて、行政との協力関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の方針を掲げ、職員の啓発に努める他、様々な研修会に参加して、情報の収集にあたりとともに、職員に対する研修を実施している。またドアや玄関の施錠についてもなるべくしない取り組みを続けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加し、この内容について職員に啓発している。また具体的な事例を挙げて勉強会を実施しその防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームにおいては成年後見制度を利用する予定者がおらず当面その必要性はないが管理者やフロア責任者の教養を深める観点から個人的な学びを持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等にあたっては利用者や家族等の理解を得られるまで、十分な説明につとめ、納得を頂いた上での署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホームにご意見箱を設置して意見や要望を提出してもらおうよう配慮する他に、家族会等の場において意見を述べてもらい、これらを運営に反映するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議やホームでの全体会議においてサービス向上の観点から様々な意見を出してもらい、可能なことから改良を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望や個人的な要望までその都度職員の意見を取り入れながら、各自がやりがいのある勤務と職場環境の充実に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の話を聞いて、フロア会議や全体会議の場で確認を取るとともに、市・区における研修に参加させて、資質の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会による研修や勉強会を通じて同業者との交流を図り、ネットワークづくり並びに他の職場における事例等を学んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分なアセスメントを実施、受け入れ態勢の確立を図っている。本人とのコミュニケーションを大切にしながら、要望を取り入れた介護の実践に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等との話し合いを通じて、個別的な要望を掌握し、介護計画に反映させている。また介護計画を説明して納得をしてもらうよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームでの生活に慣れ親しんでもらうため、職員からの声かけを強化して、時間の経過とともに本人の要望を把握し、それに合わせた行動を取ることが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望を取り入れながら、ともに生活する意識を徹底させ、職員と利用者との良い人間関係を作り上げることができ量配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からの声掛けを重視して利用者さんに出来る限り協力してもらうような態勢作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族またはその関係者ならびに友人などのホームへの訪問があり、和やかな時間を過ごしておられる。その時間を有意義なものとするような雰囲気作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のうち男性が少ない傾向にあるため各利用者の性格を見極め、お互いに円滑な人間関係を構築できるよう、また生活レベルが低下している利用者さんに対して、互いに支えあえる関係をつくるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者のうち数名は関連するホームへの転居であるため、家族とのコミュニケーションを継続して行い、ケアに反映させている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の生活の中で本煮の希望を取り入れるような工夫をしている。また生活のリズムを大切に、緩やかな規則性のある時間区分を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との話の中から出てくる内容や、家族等との話の中で本人の生活歴や趣味や得意分野などを把握しながら介護サービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個人の生活状況については業務記録やケース記録ならびにバイタル等の記録を残して現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングと再アセスメントを実施して、本人の生活動作や健康チェック心理状態等を分析して職員間の話し合いにより介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	上述したとおりであるが、日々の記録や介護実践中の気づきもこの中に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に考えてない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	送迎ボランティア・楽器演奏・マジックの披露など、区内の「まちの先生」を活用するとともに包括支援センターでのイベント参加など地域資源の活用を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の了解を得て、毎月2回の往診をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の健康管理のほか普段の生活において異変等があれば直ちに連絡相談し、適切な対処が出来るようなシステムを取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時におけるアセスメント並びに普段の健康管理において心身の状況を把握し、入院等の必要があるときは随時必要な情報交換が出来るよう病院との連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り方針にのっとり事業所で出来ることを説明し、本人または家族等への了解をもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事態急変や事故発生時に備えて定期的な訓練を実施し、職員のレベルアップをめざしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の実施や、災害に備えた保管物資の選定など、必要の都度点検し、備蓄している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者さんに対しては常に尊敬の態度をもって接している。言葉かけや各種活動において失礼のない行動を取るよう職員に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切に、これでよいか常に確認すると共に、入浴や就寝、あるいは更衣の件においても、本人の意思を確認してから実践に移している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の生活リズムは概ね定まっているが、各人の意思に任せており、食事や入浴、その他の時間の過ごし方は本人の意向を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは生活を送る上で重要であるため、髪の状態、洗顔、服装など本人の意思を確認しながらその人にあった身だしなみに注意している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくとれるようにプラスアルファのメニューを工夫している。また食事終了後は一人一人片づけを手伝っていただいたり、食器の洗浄にも携わってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量については栄養士の作成した献立を中心に摂取していただいている。水分については人それぞれであるため、多くの水分を摂取してもらうよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、必ず実施してもらっている。自力でできないときは職員の解除によって行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄は一人で可能となるように、観察をしており。入居者のリズムを把握しながら排泄処理を適切に行うよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操や体を動かすことによって、便秘予防に努めている。またココア等の繊維質を含む飲食物で便通を促進するよう、個々の状態に応じて摂取してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間は午前と午後に設定し、利用者さんの好きな時間に入ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムを大切にしながら休息をとってもらっている。また本人の生活パターンを把握するとともにその日の表情によって安心して眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬について説明書を理解するとともに服用するときは本人と確認をとってから服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味や嗜好を把握し、その人にあった気分転換を行ってもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や外出の機会を使って、その人の希望に応じてホーム周辺を散歩したり、計画を立てて外出を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に沿ってお小遣いを適切に使ってもらっている。買い物では本人の力に応じて必要な生活用品を購入するためにおこづかいを使ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当ホームの入居者さんのうちで、多くの家族の方が頻繁に訪れてくれているため、電話等の必要性を感じていないが、入居者さんの中で希望者には電話をかけてもらい、連絡を取っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある品物をホーム内に設置したり、調度品や家具など配色や使い勝手のよさを取り入れた空間作りに配慮している。特に転倒を起こさない環境作りに気をつけ、整理整頓に勤めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを有効に使い、利用者どうしで使いやすい空間作りに配慮している。気のあった利用者さんどうしでお互いの居室に招待しているため、きれいな居室を常に心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や写真などを居室に配置して本人にとって居心地の良い居室になるよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓に気をつけ、整然とした安全な環境作りに配慮している。またそのときの状況によって利用者さんにも参加してもらい、安全確保に留意している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の構築	職員全員での再構築	月別目標の設定	1年
2	2	地域との関係	地域にとけ込む	自治会入会 バザー	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。